



セピア写真館

このコーナーでご紹介する懐かしい写真、思い出の写真募集しています。農作業風景、子どもの頃の写真、地区での行事の写真などお持ちの方は、ぜひ管理課までお知らせ下さい！



東町2丁目区

久保 尚義さん



この写真は昭和37年5月18日、旭山へのサイクリング出発前に撮った写真で、当時の役場で撮影したと思います。私は羽衣製麵所の跡取り修業を始めて一年ほどで、他のメンバーも商店や工場の後継者と従業員です。月に一度ほど若手の商工業者が集まって研修などを行った、いわば商工会青年部の前身です。お祭りなどでは山車を担ぎ盛り上げ役などもしていましたね。商工会指導員だった御代さんが同行してくれました。古い写真です。東川在住の方も多いいですが、名前が判らなくなりました。古い写真です。東川在住の方も多いい方は教えていただけたらうれしいです。

あのころの東川の市街地は、東は現在の尾池精米所さんのあたりから、西は沖新聞店さんのあたりまでびっしりと店が軒を連ねており、蹄鉄屋、旅館、クリーニング店、呉服屋、建具屋、写真館、桶屋や飲食店などありとあらゆるお店があり、とても活気がありました。当然仕事も豊富で、多くの若者が町内で就職しました。東川神社祭では町を挙げて盛り上がり、安藤商店や安原商店などが、夜明けから夜中まで農家さんに生シヤケを売り歩いていたのを覚えています。当時のお祭りのご馳走だったのですね。

我が家は昭和初期に父が始めた製縄工場から始まり、建具屋時代には農家さんの温床を作らせていただきました。戦時中から戦後にかけて米不足の時代に製粉機を導入し、多くの農家さんが小麦を粉に挽きにやってきました。父はそれを見て『この小麦で麵を作ろう』と思いついたそうです。昭和25年に乾麵製造の久保製麵所を始め、その後、生麵の製造を開始し羽衣製麵となりました。製麵機は終戦時に購入した製粉機を改良したものもあり、現在も現役です。農家さんとの深い関わりの中、私の麵作りも50年を超えました。お客様に『美味しい！』と言っていただけの麵、『私が作りました』と自信を持って言える麵を作り続けるという想いは、安心・安全で美味しいお米や野菜づくりをしている農家さんと同じだと思います。そして、とても感謝の気持ちで一杯です。

東川の商店街に活気があった時代を懐かしむ一枚として、この写真をご紹介します。

